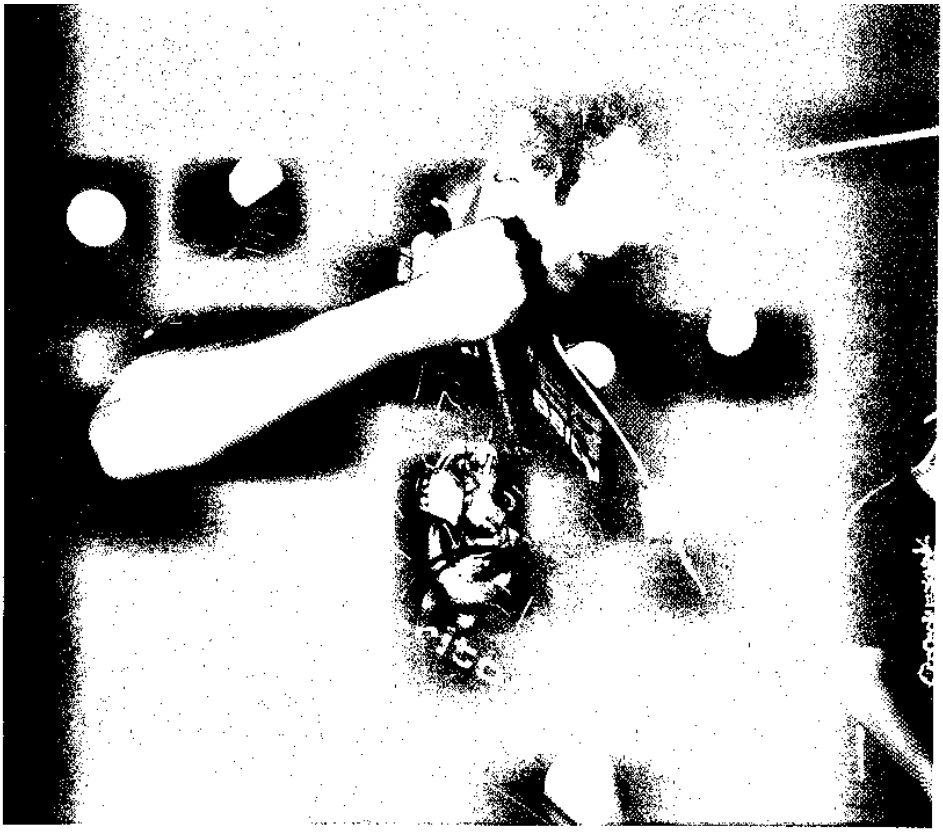
interview RECHARGE



とにかく挑戦していくことが大事なんだ

INTERVIEWED：行川和彦　*TRANSLATED*：竹内 明　*PHOTO*：松下弘子

［4月9日／福生ドトール・コーヒー］

ドイツのハノーヴァーを拠点とするパンク／ハードコア・バンドのRECHARGEが、10日以上にわたる日本ツアーを行なった。DISCHARGEの影響は大ながら、EXPLOITEDなどの80年代前半のUKパンク／ハードコア全般をミックスしたかのようなサウンドと、多角的な視点を感じさせる詞を歌うツイン・ヴォーカルは、単なるDISCHARGEフォロワーとは一線を画す新鮮さがあった。なお、アルバムは『SILENT SCREAMS』と『HAMBURG'42』(いずれも、今回のツアーの企画を立てたTRIBAL WAR ASIAからリリースされている)との2枚が出ている。メンバーはBJÖRN(Dr、Vo)、ARMIN(B)、PAUL(G)、ERIC(Vo)、JENS(G)。

▶まず、日本ツアーを終えての感想を。

BJÖRN「ツアー中、いい人にたくさん出会ってよかった。ただ、日本はドイツとかなり違っていると思った。クラブ(ライヴ会場)側が高い入場料をとるし、パンクのためだけのクラブがあまりなかったけど、ドイツだとパンクのためだけのクラブもあるし、D.I.Y.に根ざしたシーンが形成されている」

▶でも、外国のバンドの日本でのショウとしては物凄く安い値段だったんですが。

BJÖRN「ドイツにいるときは、日本人はお金持ちだから日本のパンクの人とかも結構お金をもっていると思っていたけれど、実際は全然違っていて驚いた」

ARMIN「パンク・バンドとかが日本でツアーをやると大きい利益が作れるという話も聞いていたけど、いざ来てみると日本のパンクの人たちは金持ちというわけではなかった。またドイツでは週に5日も働けば十分に生活できるけど、日本では週に6日働いてもなかなかライヴに来れないほどの収入という人たちが多いと聞いて、驚いたね」

▶色々なシステムの違いが大きいと思います。話を変えまして、DISCHARGE以外、それぞれどんなバンドから影響を受けてますか？

PAUL「DISCHARGEが一番大きくて、あとフィンランドのハードコアも結構影響大きい。最近までGANG GREEN、JERRY'S KIDS、SEPTIC DEATH、MISFITS、CRUCIFIXまでもよく聴いていた。はじめはSEX PISTOLSだったけどね」

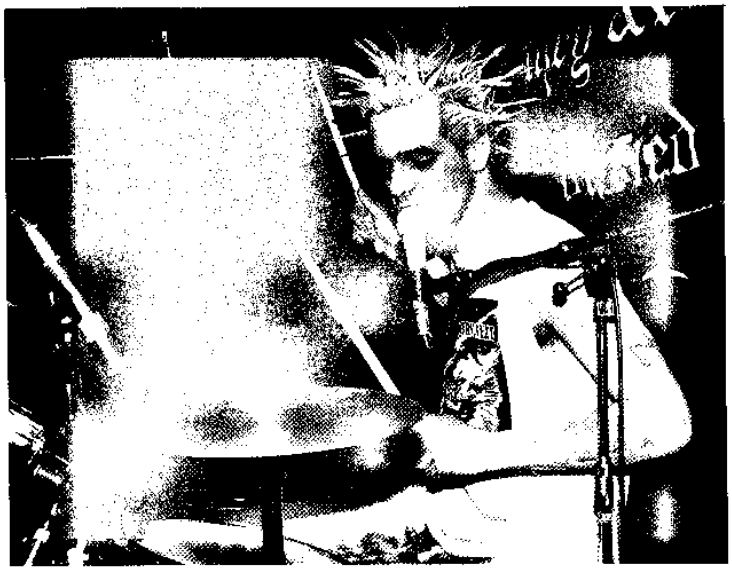
JENS「G.B.H.、DISCHARGE、スカンジナビアのバンド、EXPLOITED、CHAOS UK、CONCRETE SOXとかの影響は大きい。アメリカのはあまり好きじゃないけど、ニューヨークのCARNIVALにはハマっていたことがあるよ」

BJÖRN「基本的には80年代初期のイギリスのバンド、ONE WAY SYSTEM、EXPLOITED、VARUKERSとか、やっぱり、そのあたりのバンドというのは一番確固とした姿勢をもっていて、音楽的にも影響を受けたんだけど、その姿勢にも共鳴できたし、今も必要なものだと思う」

ARMIN「ものの考え方としてはCRASSの影響が大きい。音楽的にはCRUCIFIX、DISCHARGE、あとEXPLOITEDが何とかいっているバンドで応援しているよ(笑)」

ERIC「CRASSの影響が大きい。SODS、CRUCIFIX、EXPLOITED、あとMOTÖRHEADのレミーの声も好きだ」

▶結構みなさんEXPLOITEDを好きなようですけれど、どちらかというと彼らはメジャー・システムの中で活動している感じですが、そのあたりはどう思っているのですか？

BJÖRN「俺は"ZAP"っていう雑誌で彼らに3回インタヴューしたことがある。そのときに"裏切った"だの"金に目がくらんだ"だのっていう色々な噂を集め、彼らにぶつけてみたんだ。すると全然そんなことはなくて、人間的

にできた人だったから、メジャー(系)のレーベルで動いているけど、間違ったことはしてない返答が得られたんだ」
ARMIN「EXPLOITEDがやっているのは"こんなの俺たちは知らねぇ"とか"こんなの、くだらねぇ"とか"関係ねぇぜ"とか歌っている。それが、持つべき考えだと思うんだよ」
ERIC「説教臭いバンドっているだろう？ステージに立って客を見下ろし、"あれ、するな！""これ、しろ！"って。親や教師みたいな。そういうのは、客との関係がうまくいかないものさ。それより、EXPLOITEDみたいな方が聴く側にも圧力がかからないし。P.C.(POLITICALLY CORRECT)みたいに、"あいうことを歌うのは道徳的にハズれている"とかいうのはバカげていると思うしね」
ARMIN「昔、CONFLICTがそういうライヴをやったことがあるんだ。音的にはよかったけど、結果的に暴動を引き起こしちゃってね」
ERIC「最初の話にもどっちゃうけど、言っておきたいことがあるんだ。すごくいい人たちに囲まれて、お金のことなんか比べものにならないぐらい良い思い出になったよ。東京で土曜日のギグをやったあとに、花見に連れていってもらったんだ。40人ぐらい集まってね、盛り上がって楽しかったよ。とにかく、またこのバンドで来ようが、他のバンドで来ようが、個人的に来るときでも、ずっと連絡を取り合っていたいすばらしい人たちに会えたから、いいツアーになったよ」
▶今回、物凄い数の日本のバンドを観たと思いますが、どんな感想をもちましたか？
BJÖRN「色々なバンドとライヴができて、うれしかったよ。今ドイツでいわゆる77スタイルのバンドが流行ってるんだけど、観た日本のバンドはスピードが速いし、強烈だった」
PAUL「レコードで聴いてたバンドが観られてよかったし、レコードと同じ音でライヴをやっていたから、日本のパンク・バンドは才能あるのかなと思ったね。練習を毎日できるバンドはないはずなのに、どこですごいテクニックを身につけているのかと驚いたよ」
▶ところで、前のアルバムは英語でしたが今回すべてドイツ語の歌詞にしたのは、なぜ？
BJÖRN「最初は自分たちの言いたいことを確立させるために、英語の方がより多くの人に聴いてもらえるし、ドイツ語だと限られた人にしか伝わらないと思ってやっていたんだ。でも前のアルバムを出してからほとんどドイツでしかショウをやってないことに気が付いて、だったらドイツ語でと。で、「POLICE TERROR」って曲があるだろう？その歌のきっかけは、ちょっと前にドイツの工場みたいなところで起きた大きな暴動なんだ。そこで警察が来たんだけど、ヤツらが暴動を起こしたようなもので、関係ない人たちをボコボコぶんなぐっていたんだ。その時、パンクスたちも歯向かうようにして人数も多かったんで向こうもひるんだりしてたんだけど、何の理由もなく打ちのめされていた。そんな地元で起きたことを英語で歌ってもしょうがないし」
▶最新のアルバム・タイトル『HAMBURG'42』は何を意味しているのですか？
BJÖRN「そのタイトル曲の「HAMBURG'42」だけど、俺の親戚の人が戦争中に書いた詩を使っている。その人がシェルター(防空壕)に非難しているとき空襲にあって、死ぬ恐怖の中で書いた詩さ。使用許可はもらった」
ERIC「だから、そのタイトルは日本人ならば広島や長崎という感じで受け止められる」
▶被害者側からの視点で書いた歌詞が多い？
BJÖRN「うん。詞を読んで情景を思い浮べてもらって、そこから戦争の恐怖やバカバカしさを思い起してもらえればいい。命令調のことはやりたくないし、自分で道を開いていくことのヒントをあげる感じで書いている」
▶たとえば、かつて日本は中国や朝鮮半島などを侵略しましたが、今の若い人たちの中には"自分らには関係ない"という意見も少なくないようです。それはドイツとなるとナチスということになりますけど、"自分らには関係ない"とか思ったりはしないですよね。
BJÖRN「デストロイ・ファシズム、ナチス。とにかく、ヤツらはブチ殺さなきゃダメだ。ベルリンの壁がなくなったあと(旧)西ドイツで(旧東ドイツの人が流れてきたことなどゆえに)失業率が猛烈に高くなった。で、みんなどうしたかというと、外国からの難民や移民の人たちにその責任をかぶせた。ネオ・ナチやファシスト連中は、夜中に外国人の住む家へガソリンをまいて焼き払った。失業している人の中には"焼き殺せ"と言いまわっていた者もいる。そういった連中の中には、パンク・シーンの中にも入ってきて"てめえらのせいだ！"と言ってくるヤツもいる」
ERIC「右側と左側がある。右はファシストたちで、左はパンクたちがいる。そこで大きく溝分かれし、対立しあっている。で、何もわからない市民たちも、みんながそうしてるからという感じで右の方に流れてしまうんだ」
BJÖRN「ヨーロッパではどの国にいってもドイツ人とわかると"おめーらはヒトラーの残党かぁ"とかケナされてばかりなんだけど、外国で何も言われなかったのは日本が初めてなんで驚いた。で、さっき君は"かつて日本が中国とかに侵略して…"というようなこと言っていたけど、ずっとツアーをまわってて、そういう話を俺に言ったのは2人目だ。日本ではD.I.Y.のバンドとかも"ANTI WAR"とか言ってるんだけど、かつて自分たち(の祖先)がまわりにしていたことをあまり言い出そうとしない気がする。俺は自分たちの過去をふりかえって、自分たちがやってしまった過ちとかを、ダイレクトじゃないけど気付いていこうみたいな感じで色々と取り組んでいきたいと思っている。日本に来てもう一つ驚いたのが、たくさんのホームレスの人がいたこと。でも、日本のバンドはそういうことを歌おうとしてないから、誰もが歌っているような"反戦、反核"というのだけじゃなく、足元を見たほうがいいと思う。もし俺が日本に住んでいたら、一番最初にホームレスのことで政府に文句をつけることを歌う」
▶あえて聞きますが、そういう状況をバンド／音楽で変えられるみたいな気持ちは？
BJÖRN「社会や生き方を変えられるまで大きくは考えられないけど、そのきっかけになるヒントを与えられるようなことに挑戦していかないと。"変えられるか？"と疑問に思ってても何も始まらないから、とにかくやってかなければという気持ちでやっている」
▶では、最後に一言。
BJÖRN「自分で考えろ」
PAUL、JENS「パンク・ロックよ永遠に」
ERIC「人に教わろうとせずに、自分から前に進んでいけ」
ARMIN「みんな宝くじに当たって、みんな働かなくなることを祈るよ(笑)」
THANKS TO ALL PEOPLE WE HAVE MET.
Especially:RICKY&EXTINCT GOVERNMENT＋T.T.、SEIKO for sightseeing, NITTA、NOBU(YAMANASHI), AOKI(special thank from PAUL for borrow me his guitar after my Gibson guitar broke at the gig in Toyohashi)&CROCODILE SKINK, DAISUKE＋OSAMU, KOFU city hardcore＋S.D.F., DISCLOSE, all TOKYO＋NAGOYA＋OSAKA punks, all guys who shared their homes＋food and time with us